

丹沢たかし活動報告

市川三郷町市川大門1227 TEL/FAX 055-272-0413 丹沢たかし後援会



ごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。少しでも良いことが多い年となることを願っています。

昨年は市川三郷町合併10周年の事業も無事終了しました。記念式典では、故第12代市川團十郎丈の令夫人堀越希実子様トークショーや妹市川紅梅様と娘市川ぼたん様との日本舞踊など、優雅さを感じさせる芸能に触れることができました。これだけ市川團十郎家の方々のお出演を得られるのは、「市川團十郎発祥の地」というゆかりのお蔭であり、歴史の重みにありがたさを感じるものでした。歴史によるこの縁をさらに大切にしなければならぬと改めて痛感しました。

山梨県ゆかりの明るいニュースとしては、韮崎市出身で山梨大学卒業の大村智さんのノーベル生理学・医学賞受賞がありました。アフリカでの難病治療への貢献だけでなく、その人間性や特に故郷を愛する活動に多くの人々が感銘を受けました。また、もう一人の受賞者である梶田隆章さんも埼玉大学卒業であり、「地方創生」が政策の目玉とされている今、地方の可能性を感じることができる嬉しい出来事でした。

1月3日付けの読売新聞に次のようなコラムがありました。

「『さ』の1字を『か』に替える。何をするにも遅すぎることはない、『今さら』と思うのをやめて『今から』やればいいのだから……。『か』の字を『な』に替えて『今なら』にすると印象がちがう。この機を逃せば手遅れになりかねない、といった響きを帯びる。……『今さら』と諦めた時、手遅れとなる瞬間が近づくのだろう。人生にも社会にも『さ』の字はよくない。」

町づくりに対しても、手遅れと諦めることなく、「今、やらなければならないこと」に対してきちんと取り組む決意をもって議会活動に邁進していきたいと思ひます。

皆様のご指導をお願い申し上げます。

■所属委員会

- 「総務教育常任委員会」
・本会議に提出された議案の内、企画課、総務課、財政課等の所管する事務の議案等について審査します。
(所属外の委員会についても出席しています)
- 「議会広報編集特別委員会」
・6名の議員で構成され、「議会だより」を年4回発行。毎号複数回の編集会議を開催し、原稿作成・編集・校正を行い、より判りやすい紙面作りに努めます。
- 「議会改革特別委員会」
・全議員で構成。市川三郷町議会では、議会活動の基本事項を定めた「議会基本条例」を平成25年に制定。

■定例議会は年4回(3月・6月・9月・12月)開催されます。(概ね2週間の会期で開かれます)
この他に、必要により、臨時会が開かれます。

一般質問 9月・12月定例議会で以下の一般質問を行いました。

* 詳細は市川三郷町ホームページ「議会会議録」に掲載されます。

1. 「市川三郷町出身者の会」を連携型で設立を

◆質問概要

交流人口を増やし、町の活性化に資する組織として「『市川三郷町出身者の会』を設立したらどうか」との質問を3月議会で行った。その後の検討状況はどうか。

また、設立の形態としては、地元の住民も会員対象とした「連携型」が望ましい。事務局機能は行政が担い、会を積極的に運営・活用すべきである。

●町長

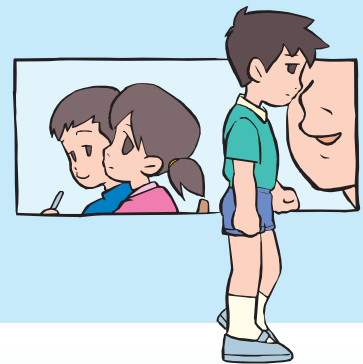
「出身者の会」は、町にとって意義ある会であると考えている。今後早急に町、議会、商工会等有識者による対策チームを立ち上げ、設立に向けた検討に入り、取り組みを具体化したい。

2. 町内小中学校における「いじめ対策」について

◆質問概要

文部科学省により「いじめ」に関する全国調査が行われた。町内小中学校での現状及び対策はどうか。

- ① 本町の小中学校における調査結果とその評価について
- ② いじめ防止基本方針の概要と対応状況について
- ③ 運用状況のチェック体制の考え方について
- ④ 家庭との連携について
- ⑤ スマートフォンの使用ルールについて



●斉木教育委員長

- ① 調査結果は小学校4件、中学校21件。25年度より小学校で10件、中学校で5件減少した。
- ② 各学校で「いじめ防止基本方針」を策定済み。いじめ対策の組織体制、未然防止や早期発見の取組み、発生時の対処方法、家庭や地域との連携等を規定している。
- ③ 各学校に「いじめ対策推進委員会」を設置し、各学期にアンケート調査、実態把握、いじめ防止基本方針の運用状況のチェックを全教職員で実施している。
- ④ 学校だより、電話連絡等により日常的に家庭との情報交換を行い、学校・家庭の連携により未然防止や早期発見に努めている。
- ⑤ 県PTA連合会、県教育委員会、町教育委員会等で携帯電話等の基本ルールを提示し、各家庭でのルール作りを進めるよう、各学校に取組みを要請している。

3. まちの花「りんどう」で甲斐源氏発祥の地の発信強化を

◆質問概要

市川三郷町のまちの花は「りんどう」が指定されている。市川高校・市川小中学校の校章も笹りんどうである。「甲斐源氏発祥の地」として、源氏の家紋とりんどうとのつながりから指定されたものである。町内全域に「りんどう」の花を普及させることにより、「甲斐源氏発祥の地」としての対外発信を強化したらどうか。

●町長

「甲斐源氏発祥の地」として更なる誇りを持って情報発信に努めていく。

りんどうは過去町内での自生地調査を行った。役場職員が10年がかりで栽培しているが普及させる段階までには至っていない。更なる取り組みを進め、普及に努めていく。



主な特記事項

●手話条例制定

- ・「手話も一つの言語である」として定義する「市川三郷町手話言語条例」を昨年9月議会で制定した。県内初である。
- ・今後「手話施策推進会議」を設け、具体的な施策を検討し、3か年計画を策定する。
- ・今年の成人式でも手話通訳者が舞台での通訳を行った。

●子育て支援医療費助成金支給条例の改正

- ・町独自の施策として、満18歳まで（従来満15歳までを上げた）の医療費の窓口無料化を昨年10月より実施。補正予算として、半年分で648万円追加計上。

●重度心身障害児の医療費の窓口無料化

- ・町独自の施策として、今年1月より重度心身障害児の医療費についても窓口無料に戻した。
- ・一昨年11月に県方針により一時払い方式に変更された。
- ・県も、重度心身障害者の医療費支払いを「満15歳（の年度末）までを対象に4月から窓口無料に戻す方針」との報道がなされている。

●町議会会議規則の改正

- ・社会情勢を考慮し、議長あてに提出する議会欠席の理由として「出産」を追加した。

● 峡南医療センター企業団（市川三郷病院、富士川病院、2老健の運営）

■ 開設者である市川三郷町と富士川町で、それぞれ3億6500万円を融資することを12月議会で議決。

- ① 短期貸付金 2億1500万円（期間1年以内、無利子）
- ② 長期貸付金 1億5000万円（期間30年以内、0.3%）
 - ・ 企業団での資金不足への対応のため。
 - ・ 市川三郷町及び富士川町とも同一条件。

■ 経営概況

- ・ 平成26年4月に統合。統合初年度の26年度に約7億122万円の赤字決算。
- ・ 主に病床利用率の低迷（市川三郷病院 29.9%、富士川病院 41.1%）による収入の減少が要因。
- ・ 今後は、コンサルタント案をベースとした経営改善計画に基づき改善を図る。
- ・ 今年8月より泌尿器科および血液浄化療法を市川三郷病院から富士川病院に移す予定。

● 市川高校に関する統合問題について

《山梨県教育委員会による 提示内容》

- ① 北部3校（市川高校、増穂商業、峡南高校）を統合し、単位制の総合制高校を設立する。
- ② 統合後の高校は通学の利便性を考慮し、「市川三郷町のJR身延線沿線に設置する」。



- ・ 市川三郷町では「市川三郷町高校再編整備検討委員会」（会長：久保町長）を主体に活動している。
- ・ 昨年12月、県に対して現在の市川高校周辺への設置を早期に決定する様要請した。
- ・ 今後の明確なスケジュールは示されていないが、県教委による「市川三郷町のJR身延線沿線に設置する」との説明は重たいものがあるものと思料する。



1月10日、平成28年の市川三郷町成人式が、歌舞伎文化公園ふるさと会館で行われました。

新成人155名の出席により、落ち着いた雰囲気の中で進行了ました。

（昨年は新成人176名出席）

宛先などに誤りがございましたら、なにとぞご容赦ください。

なお、お知らせいただければ幸いに存じます。

